

寝るのが好きな神様

吉田純子・作

新井由木子・画



ある神社に寝るのが好きな神様がいました。

ふっかふかの布団で、ぬくぬく寝るのが大好き。

最近のお気に入りはいえは、『自分よりもでーっかい

チョコレートパフェをもぐもぐ食べる夢』を見ることです。

神様のいる神社は、高い高い高い高い高い山のとっぺんにありました。ほとんど誰も来ません。だから、お仕事をしなくてもオッケー！ 毎日、ぐうぐう眠り続けていました。

そんなある日、ひとりの男がこの神社にやってきました。

シャラン、シャランという鈴の音で目がさめました。

寝るのが好きな神様は、ちょうど、でーっかいチョコレートパフェにかぶりつこうとした瞬間でしたから、

「あともう少しだったのに」

と、よだれをぬぐいました。

いくら寝るのが好きでも、誰かが来たのでは起きないわけにはいきません。お願い事を聞いてあげなければいけません。

その男は、パンパンと二回手を打つと深々と頭をさげました。

「わたしは、はなまる小学校という所で校長先生をやっています。子どもたちのためにと思って、毎週の朝礼で一生懸命話をしています。それなのに、聞いてしまったのです。『校長の話、長すぎてウザクね？』『超ウゼー。だから、全然聞いてねー』と。しかも、たくさんの子どもたちが同じようなことをしていたのです」